

## 土砂災害年表

長野県姫川砂防事務所  
最終更新日:令和3年3月1日

年号	西暦	管内の土砂災害	主な砂防事業史	その他記述
明応8年	1499	清水山地すべり。被害範囲次第に大となり神宮寺も移転。		
文亀元年	1502	12月10日(西暦1502年1月28日)越後西南部に地震M6.9(越後地震M6.5~7.0)、南小谷村に山崩れ発生。真那板山が崩壊、姫川をせき止める。		越後地震による死者多数。
文亀2年	1503	清水山地すべり。中谷川をせき止め、田中までの5kmで湛水。		
寛永4年	1627			寛永4年9月14日(西暦1627年10月22日)松代地震が発生。M6。死者多数。
寛永18年	1641	翌19年と2か年、四ヶ庄と小谷地方凶作、餓死者131名(巳午の飢饉)。		
元禄9年	1696			6月は寒く、冬のようにであったと言われている。世界的冷夏(火山塵:セレベスの火山サブタン)
正徳4年	1714	3月15日、信濃北西部で大地震発生(信濃北部地震M6.2)。千国の枝郷坪の沢と滝の平の間が崩れ死者30名(岩戸山崩れ、M6.2)。四ヶ庄堀内48戸つぶれ14名死亡。その他、雨中6戸、宮本4戸、下里瀬6戸、中尾3戸の家屋がつぶれた。		信濃北西部の大地震。山崩れなど、死者56名。
享保4年	1719	12月20日、沢度村大雪崩。名家6戸埋没、20名死亡。		
享保11年	1726	稗田山の金山沢崩落し、姫川をせき止める。姫川洪水、来馬諏訪社流失。		
寛保2年	1742	8月2日、姫川大洪水。特に下流の越後は流れが大きく変わる。		
延享4年	1747	8月19日、姫川大洪水。		冷害。浅間山噴火。群馬県吾妻郡永之原村、火山泥流による被害激甚。
寛延4年	1751			4月26日(西暦1751年5月21日)高田地震が発生。M7.0~7.4。死者1541名。
天明6年	1786	雨天100日にわたり大町組大凶作		
寛政元年	1789	12月23日、神城西山大雪崩発生。佐野集落を襲い、人家10戸倒壊、死者26名。		
寛政10年	1798	大町平および四ヶ庄凶作。		
文化6年	1809	3月21日、南小谷村天久保・吉尾・宮本・来馬等に地すべり発生、下里瀬は池となる。また、3年続きの凶作。		
文政8年	1825	12月14日、四ヶ庄凶作。百姓一揆が起こり、小谷も騒動。		
天保7年	1836			世界的に低温、凶作飢饉となる(火山塵:パプヤン・コセギナ)。 天保8年も引き続き冷夏。
天保13年	1842	6月、風吹岳が崩壊。来馬下寺集落の人家耕地を流す。		
弘化元年	1844	6月、浦川の上流が崩壊。来馬下寺に被害を与える。		
弘化4年	1847	3月24日(西暦1847年5月8日)、長野平で大地震(善光寺地震M7.4)があり、日道村8戸抜け落ちる。小谷地方でも死者・倒壊家屋あり。		善光寺地震。天然ダムの決壊などにより死者8600人強。
文久元年	1861	中谷川右岸に地すべり発生。		
文治2年	1865	堂田に大抜けあり、増田橋上流の人家2戸流す。		
明治4年	1871		明治政府によって「砂防五ヶ条」が公布。	
明治5年	1872		オランダのヨハネス・デレーケ氏ら数名のオランダ名技師によって木曾川・信濃川等改修計画について調査立案。	8月1日、千国に郵便局が開局(大町と同時)
明治7年	1874			1月12日、神城および北城に郵便局取扱所が開設。
明治11年	1878		木曾川支流蘭川に県で初めて砂防事業が開始される。	
明治19年	1886	小谷および四下ヶ庄で冷害による凶作。		世界的に日射低下(火山塵:クラカトア)。 現在の国道148号線を第6号県道糸魚川街道と認定する。
明治20年	1887	明才堰が決壊し、中抜け崩壊が発生。		
明治23年	1890	1月、地震により北城村東部に地面亀裂が生じ、石碑が倒れる。		
明治30年	1897		3月30日、砂防法公布。	
明治31年	1898		牛伏川で国庫補助事業として砂防工事に着手。	
明治35年	1902	7月15日、南小谷村小土山が崩壊する。		

年号	西暦	管内の土砂災害	主な砂防事業史	その他記述
明治38年	1905	6月20日、姫川沿岸一帯に水害が発生。 8月、小谷温泉地すべり。 11月凶作。収穫皆無の田、神城村で5町歩7反歩、中土村で6町4反歩に及んだ。		
明治39年	1906	4月11日、中土村塩之久保で融雪による地すべり発生。10戸余移動する。		
明治40年	1907	12月7日、小谷地方地震。	4月23日、森林法公布。	
明治41年	1908	2月、中土村半坂で地すべり発生。4戸移転。		
明治42年	1909	8月10日、姫川洪水。沿岸各村の被害多し。		
明治44年	1911	6月、中土村市場および堂田で地すべり発生。 7月16日、姫川洪水。南小谷中土に流出家屋あり。 8月8日、稗田山大崩壊。浦川を埋没し姫川をせき止める。下里瀬地区まで湛水し、一大湖と化す。被害家屋73戸、死者23名。		
明治45年	1912	4月26日、稗田山が雨で崩落。5戸が埋まる。同時に中土村立山と高地坂崩落。 7月22日、大豪雨で天然ダムが決壊し、来馬河原の3戸と下流の橋梁が残らず流出。 8月、中土村白岩地すべり。		
大正元年	1912	9月22日、暴風雨で北城地区・南小谷地区に被害。		
大正2年	1913	4月、姫川氾濫。清水山沖より山抜け、松葉沢に押し出す。		
大正4年	1915	3月、中土村外沢崩壊。 4月、南小谷村池原裏山崩落。姫川をせき止め家屋を埋没し、田他14町を流失。 7月、南小谷村塩之久保・中土村耳小沢が崩壊。		
大正5年	1916	5月、旋風被害。木崎湖上に竜巻が発生。神城の人家7棟が被害。また、同月寒冷薄氷を見る。		
大正6年	1917	3月、北小谷村横川地すべり。田畑11町歩、人家10戸が危険に陥る。 6月、晩霜。桑樹の被害大。 7月、大雨。姫川出水沿岸に被害。		
大正9年	1920	清水山地すべり、中谷川をせき止める。		4月1日、現在の国道148号(糸魚川街道)を松本・糸魚川線に改称する。
大正12年	1923	豪雨のため姫川出水、北小谷村来馬集落流失する。		9月1日、関東大震災M7.9。死者・行方不明者105,385名。
昭和4年	1929	大風被害。神城村損壊家屋123戸。		9月25日、国鉄大糸南線築場駅以南開通。
昭和5年	1930			10月25日、国鉄大糸南線神城駅まで開通。
昭和6年	1931	7月9日、松川・平川で洪水		9月18日、満州事変。
昭和7年	1932	2月、小谷村大平地籍で底雪崩発生。6名死亡。	相次ぐ不況のため、当村の農山村を救済する目的で農村振興砂防工事を起こし、平川に源太郎砂防ダム着工。	11月20日、国鉄大糸南線森上駅まで開通。
昭和8年	1933	1月、中土村赤坂地すべり。高地1万坪を埋没させる。 12月16日、中土村神久地すべり。中谷川をせき止める。	県が土木部を設置。河川課砂防係で砂防業務担当。 平川支川崩沢砂防ダム完成。	
昭和9年	1934	1月4日、小谷村島地籍で表層雪崩発生。2名死亡。 4月、中土村清水山および白岩地すべり。中谷川をせき止める。 7月11日、豪雨。平川の堤防が決壊し、北城村四ツ谷付近に水害あり。 8月、中土村吉原地すべり。 8月～9月、冷害。北部地区の稲作平年の50%以下。	中谷川の白岩・十二沢・横川支成沢にそれぞれ砂防ダムを施工。	
昭和10年	1935		中谷川支抜沢砂防ダム着工	11月29日、国鉄大糸南線中土駅まで開通。 12月、国鉄大糸北線糸魚川小滝間運転開始。
昭和11年	1936	2月28日、太田地すべり。 3月黒倉地すべり。 4月、犬川氾濫。 5月23日、風吹岳崩壊。山津波を起こし3日間にわたり泥土を押し出し、姫川をせき止め、中谷川まで逆流。	土谷川および戸石沢砂防ダム着工。	
昭和12年	1937		国が地すべり対策費予算計上する。	
昭和14年	1939	4月4日、南小谷村風張山崩落。姫川をせき止め交通途絶。(国鉄大糸線350m埋没)	長野県、河川課から砂防課を独立して設置。 太田地すべり、通常砂防事業災害復旧事業により促進。	
昭和15年	1940	4月11日、中土村外沢下および赤坂崩壊。	土沢川砂防ダム着工。	
昭和16年	1941	3月、南小谷村月岡地区で雪崩発生。小学校の校舎一部損壊、人家一戸全壊。		12月、太平洋戦争開戦。 7月15日、長野地震。M6.1。死者5名。
昭和17年	1942		4月1日、姫川砂防事務所が設置される。 南股川砂防ダム着工。	
昭和18年	1943			10月13日、長野県北部地震。M5.9。死者1名。

年号	西暦	管内の土砂災害	主な砂防事業史	その他記述
昭和19年	1944	7月～10月にかけ、4回にわたり洪水あり。小谷四ヶ庄凶作となる(集中豪雨)		
昭和20年	1945	2月22日、北小谷村季平地区で全層雪崩発生。1名死亡。 4月、大糸線千国・南小谷間の姫川護岸が決壊。 10月、姫川氾濫。第三姫川橋以遠不通。 12月19日、北小谷充明地区で表層雪崩発生。1名死亡。人家全壊。		茶臼山地すべりが発生。 8月15日、太平洋戦争終戦。
昭和21年	1946	6月8日～9日および23日～25日に豪雨被害。平川および松川氾濫。外沢および来馬地すべり発生。	滝沢川(白馬)流路工開始。	11月3日、日本国憲法公布。
昭和22年	1947	4月、外沢地すべり。融雪によりさらに動き、14戸中12戸は他の安全地域に移転。		5月3日、日本国憲法施行。
昭和23年	1948	7月、雷雨。風吹岳が泥土を押し出して、姫川をせき止める。		
昭和24年	1949		濁沢へ砂防ダム本格的に計画設置。	
昭和25年	1950		長野県、土木出張所を建設事務所に改称。	6月25日朝鮮戦争勃発。
昭和26年	1951		森林法を全面的に改める。	
昭和27年	1952	6月30日、梅雨前線豪雨。中土村に地すべりが続発し、国鉄大糸線北部の復旧に約3ヶ月の日時を要した。	白井沢および唐沢(北小谷)砂防ダム着工。 白馬村鳴沢川流路工着工。 補助地すべり対策事業開始。	
昭和28年	1953	7月7日、豪雨。松川橋上流が80m破堤。大出地区浸水被害。国鉄大糸線松川橋左岸径間が流失。 9月26日、台風13号。国道148号外沢地区で通行止め。		5月、県道松本糸魚川線が二級国道糸魚川線に編入。
昭和30年	1955	10月11日、濁沢土石流災害。姫川本川を左岸へ押しやる。		
昭和31年	1956		清水山地すべり対策事業開始。 4月14日、積雪寒冷特別地域における道路確保に関する特別措置法制定。	9月30日、神城村および北城村が合併して白馬村となる。
昭和32年	1957	4月2日、南小谷村祖子山地すべり。民家1戸流失。死者2名。 7月7日、集中豪雨。白馬村で231mm、谷地川および木流川で氾濫。 8月29日、大雨により松川氾濫。大糸線が不通となる。北城小学校音楽室のグランドピアノが鍵盤まで水に浸かる。		8月15日国鉄大糸線全線開通。
昭和33年	1958		3月31日、地すべり等防止法制定。	4月1日、南小谷村・中土村・北小谷村が合併し小谷村となる。
昭和34年	1959	2月、小谷村神平地すべり、大糸線不通。 3月～4月、小谷村中土地すべり。家屋4棟が全壊。 7月10日、平川・松川氾濫。大糸線中土・北小谷間の築堤が決壊。 8月、台風7号。小谷村で地すべり頻発。 9月26日、台風15号(伊勢湾台風)の通過により、松川上馬畔決壊。北城小学校東校舎床上60cm浸水するなど流失家屋114戸を数え、白馬村で2億9千万円の被害があり、災害救助法が適用される。		9月25日、2級国道148号と認定。
昭和35年	1960	3月3日～5日、小谷村清水山地すべり。4戸全壊、4戸半壊。耕地14haを失う。 4月、小谷村南小谷弥太郎地籍地すべり。3戸全壊。 8月10日、台風11・12号通過。各地に被害をもたらす。	治山治水緊急措置法制定。 松川支北股沢・南股沢および中谷川で大型砂防ダム着工(北股、南股、元湯)。	1月19日、日米安保条約が署名される。
昭和36年	1961	3月30日～31日、清水山地すべり。中谷川をせき止める。流失土量100m <sup>3</sup> 、家屋全壊2戸、半壊3戸。 6月23日～30日、梅雨前線豪雨により清水山で再度地すべり。中谷川をせき止める。白馬村275mmの降雨あり、山の神付近で破堤し、1億3千万の被害あり。		6月26日～27日、梅雨前線豪雨。伊那谷大災害が発生する。
昭和37年	1962		4月5日、豪雪地帯対策特別措置法制定。 松川支北股川・南股川・平川・浦川が直轄砂防となる。	
昭和38年	1963	1月～2月、記録的な大雪。雪崩続発。	平川源太郎砂防ダムが補助事業(県施工)で完成(H=20m、L=235m、V=13,607m <sup>3</sup> )。 北股砂防ダム完成(H=18m、L=106m、V=16,868m <sup>3</sup> )。	
昭和39年	1964		11月1日、姫川砂防事務所現庁舎落成。	10月10日東京オリンピック開催。
昭和40年	1965	7月12日、梅雨前線豪雨。松川が氾濫し、松原で右岸堤防160m決壊。大出集落浸水21戸、国道200m水没、国鉄大糸線中吊り、小谷村浦川氾濫。	南股砂防ダム完成(H=21m、L=189.5m、V=22,037m <sup>3</sup> )。 元湯砂防ダム完成(H=17m、L=90m、V=12,342m <sup>3</sup> )。	
昭和41年	1966		中谷川押立ダム着工。	
昭和42年	1967	7月～8月、大雨。大糸線不通となる。	予算措置をもって補助事業として急傾斜地崩壊対策事業を開始。	12月、南小谷駅まで大糸線電化。
昭和43年	1968		補助急傾斜地崩壊対策事業として初めて山ノ内町星川が採択される。	

年号	西暦	管内の土砂災害	主な砂防事業史	その他記述
昭和44年	1969	8月9日～11日、大雨。笹平196mm、神城85mm、各河川氾濫被害あり。小谷村中谷川氾濫し、県道田中地籍で遮断、真木下でバス停を押し流し、沿岸の水田も流失する。	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律が制定。 押立砂防ダム完成(H=15m、L=90m、V=9,950m <sup>3</sup> )。	
昭和45年	1970	4月21日、小谷村月岡に崖崩れ発生。人家1戸損壊。	犬川流路工着手。全体計画1893.5m。 県単独急傾斜地崩壊対策事業が制度化される。 西親沢千国砂防ダム着工。	3月14日～9月14日、大阪で万博が開催される。
昭和46年	1971	7月16日、小土山崩壊。姫川本流をせき止める。 11月29日、小谷村柳瀬地区の杉山沢に鉄砲水あり。国鉄大系線不通となる。		
昭和47年	1972	12月1日、耳尾沢積雪により落橋。 12月27日、外沢地すべりが再発生。	千国砂防ダム完成(H=15m、L=73.5m、V=6,113m <sup>3</sup> )。	2月3日～13日札幌冬季オリンピックが開催される。 2月19日、あさま山荘事件 5月15日、沖縄本島返還。
昭和49年	1974	4月17日、来馬および白岩地すべり、県道決壊2箇所。村道埋没70m。	中谷川元湯砂防ダム着工。	
昭和50年	1975	4月10日、虫尾地すべり 4月23日、土谷大峯地区地すべり 6月28日、戸土地すべり		
昭和51年	1976	12月17日、黒木沢上流地すべり。		
昭和52年	1977	3月25日、姫川温泉地すべり、1名死亡。 4月3日、外沢地すべり拡大。		
昭和53年	1978		熊ヶ入沢大左右砂防ダム着工。管内で副次効果を持つ初めての砂防ダム(H=17m、L=61.7m、V=7,296m <sup>3</sup> )。 元湯砂防ダム完成(H=15m、L=79.8m、V=9,083m <sup>3</sup> )。 下寺急傾斜地崩壊対策工事(補助)着工。 土谷川奉納砂防ダム着工。	
昭和54年	1979			10月28日、御嶽山が水蒸気爆発。
昭和56年	1981	1月2日、未曾有の豪雪で家屋の損壊相次ぐ。白馬村八方尾根で表層雪崩、別荘2戸全壊。 4月4日、清水山地すべり。砂防ダム(枠堰堤)1基流失。 6月23日、姫川増水。国道148号小谷橋西側決壊。	大左右砂防ダム完成、事業費295百万円。 11月30日、清水山地すべり対策事業35周年および浦川直轄事業20周年記念式典(小谷村)。	
昭和57年	1982	5月23日、局地的豪雨。犬川で土石流発生、既設砂防ダム4基を損壊し、工事中のタケガ入砂防ダムに突っ込み、手戻りが生じる。 9月12日、台風18号。日かげ沢で土砂崩壊5千m <sup>3</sup> 、水田10haに土砂流入。	犬川流路工完成。45年に着手以来13年間をかけ、総事業費512百万円で流路長1,893.5mを実施。	
昭和58年	1983			12月24日、特急しなのが南小谷駅乗入れ開始。
昭和59年	1984	2月3日、小谷村で大雪による雪崩被害発生。2月10日、雪崩救助法が適用。 7月21日～22日、梅雨前線の局地的豪雨。白馬村東山一帯が被災。 7月26日、集中豪雨。小谷地方に被害発生。横根沢氾濫。		9月14日、木曾郡大滝村を中心に長野県西部地震が発生し、大災害となる。死者29名。M6.8。最大震度6。
昭和60年	1985	7月8日、大雨。小谷地方で国道148号が14日まで通行止めとなる。 7月25日、梅雨により大槽川筋が被災。	雪崩対策事業を創設。	7月26日、長野市地附山で大規模な地すべりが発生し、死者26名。 8月13日、御巢鷹山にJAL123便が墜落。
昭和61年	1986		犬川大日方砂防ダム着工(H=14m、L=182m、V=19,159m <sup>3</sup> )。	
昭和62年	1987		12月18日、独身寮「姫川寮」新築落成。 県内で飯山市倉本地区、白馬村沢度地区の2箇所ですべり対策事業に着手。	4月1日、JR発足。 12月4日、国道148号白馬村森山バイパス供用開始。 12月17日、関東における戦後初の被害地震となった千葉県東方沖地震が発生。M6.7。最大震度5。死者2名。
昭和63年	1988		小谷村月岡で雪崩対策事業着工。 土谷川奉納砂防ダム完成(H=18m、L=92m、V=14,486m <sup>3</sup> )。	3月5日、中央自動車道長野松本インター開通。 3月13日、青函トンネルが開通。 4月10日、瀬戸大橋開業。 6月1日、1998年冬期オリンピック国内候補地に長野市が決定。 7月20日、北陸自動車道糸魚川インター開通。 8月3日、長野道松本豊科間開通。
昭和64年	1989			1月7日、昭和天皇崩御。1月8日、元号が「平成」と改まる。
平成元年	1989	9月19日、台風22号。中土の大沢地区で地すべり発生。移動量3万m <sup>3</sup> 。	11月10日、大沢が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。 横根沢弥太郎砂防ダム着工(H=22m、L=80m、V=17,377m <sup>3</sup> )。	1月14日、官庁第2、4土曜日開庁となる。 2月24日、昭和天皇大喪の礼。
平成2年	1990	9月19日～20日、台風19号。中谷川・濁沢筋に災害発生。		11月8日、国道148号小谷村千国バイパス供用開始。 11月17日、雲仙普賢岳噴火。

年号	西暦	管内の土砂災害	主な砂防事業史	その他記述
平成3年	1991	3月25日、中谷真木で鉄砲水発生。県および村道が通行止めとなる。 4月8日、弥太郎地籍地すべり。横根沢をせき止める。埋塞土量1万8千m <sup>3</sup> 。 9月27日、台風19号の強風により小谷地方58戸が被害。	8月23日、弥太郎が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。	2月12日、雲仙普賢岳再噴火。 6月3日、雲仙岳で火砕流が発生。死者行方不明者43名。 6月16日、1998冬期オリンピックの開催地を長野市に決定。
平成4年	1992	1月28日、融雪により白岩地籍で地すべり発生。県道川尻系魚川線全面通行止めとなる。流出土砂量6千m <sup>3</sup> 。 4月1日、融雪により市場2号地籍で地すべり発生。流出土砂4,000m <sup>3</sup> 。	6月17日、白岩が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。 市場2号が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。	8月1日から週休二日制が施行される。 12月、白馬ジャンプ競技場完成。
平成5年	1993			皇太子ご成婚。 7月12日、北海道西南沖地震(奥尻島地震)が発生。M7.8。最大深度5。死者202名、行方不明者28名。 12月28日、三陸はるか沖地震発生。M7.6。最大震度6。死者3名。
平成6年	1994	4月14日、融雪による清水山地すべり。人家16戸が孤立。	3月、オオタカ保護条例制定。 清水山が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。 小谷村・鬼無里村・小川村の3村で砂防激甚災害対策特別緊急事業が採択される。総事業費37億5千万円。小谷村8溪流で30億円。災害関連緊急事業は、白馬村4溪流・小谷村29溪流の砂防事業で107億100万円、白馬村1箇所、小谷村17箇所の地すべり対策事業で34億9千5百万円、小谷村の1箇所急傾斜地崩壊対策事業を3億5千4百万円で採択される。	1月17日、阪神・淡路大震災が発生。死者6,434名、行方不明者3名。M7.3。最大震度7。 3月20日、東京地下サリン事件。
平成7年	1995	7月11日～12日、長野県北部梅雨前線豪雨により白馬村および小谷村全域に甚大な被害が発生。24時間最大雨量は白馬村猿倉で487mm、南小谷で357mm、時間最大雨量は48mm/hと200年確立を超える豪雨。白馬村および小谷村に災害対策本部が設置され、小谷村で災害救助法が適用される。死者0名、全壊家屋28戸。被害額は914億を超えた。また、白馬大雪渓でも土石流が発生した。	12月、姫川源流と新海湿原ほか9箇所が関姫川水百選に認定される。	
平成8年	1996	6月24日～26日、集中豪雨。国道148号線が通行止。姫川湯橋の右岸が流失する。 12月6日、蒲原沢で降雨・融雪による土石流が発生。死者14名。		
平成10年	1998	3月21日、平成7年平川の護岸に生じた地すべり性状が拡大する。倉下で地すべりが発生。どんぐり村の保存家屋および村道に亀裂が入る。 12月16日、大網の達磨山で岩盤崩落。大糸線南小谷～小滝間が全面運休する。	倉下が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。	2月7日～22日、第18回長野冬季オリンピックが開催される。 3月、第7回長野冬季パラリンピックが開催される。
平成11年	1999	2月、融雪により大網地すべりが活性化する。 10月28日、濁沢で土石流が発生。JR橋が埋没し、15日間不通となる。 池原で地すべりが発生する。	大網が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。 濁沢が災害関連対砂防事業に採択される。 横根沢砂防ダムが完成(H=22.0m)。	
平成12年	2000	3月、融雪により梅池地すべりが活発化。 4月11日、耳尾沢で土石流が発生。 4月21日、市場2号地すべり。 4月22日、戸石地すべり。	梅池、市場2号、戸石が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。 耳尾沢が災害関連緊急砂防事業に採択される。	8月、レッドデータブックが発行される。
平成13年	2001	4月12日、弥太郎地すべり。	4月1日、土砂災害防止法施工。 弥太郎が災害関連地すべり対策事業に採択される。	
平成14年	2002	1月5日、白馬・小谷に豪雪対策本部が設置される。 4月18日、融雪により城で地すべりが再活動。 11月、横川支川仙扇沢の国有林保安林内で地すべりが発生。	城が災害関連緊急地すべり対策事業に採択される。 12月、松川景観モデル事業の松川流路工が完成する。	5月31日～6月30日、FIFA日韓ワールドカップが開催される。
平成15年	2003	3月17日、融雪により外沢で地すべりが再活動。 6月28日、白馬大雪渓で雪泥流発生。白馬尻小屋に土砂40m <sup>3</sup> 流入。人的被害なし。 9月、城地すべりの上部で再活動。		3月、イラク戦争勃発。 9月26日、十勝沖地震発生。M8.0。2mを超える津波により死者2名。
平成16年	2004	4月2日、清水山地すべりで村道が陥没。村道不通となる。 9月30日、台風21号。中土桐の木沢で土砂が流出し、県道が埋まる。	12月、白馬村の土石流警戒区域(79箇所)を土砂法指定する。	10月23日、新潟中越地震発生。M6.8。最大震度7。死者68名。全壊家屋3,175棟。
平成17年	2005	4月7日、白馬村、花園下で山腹崩壊。嶺方沢二流出する。 8月11日、白馬大雪渓上部の杓子岳の斜面が大規模岩盤崩落を起こし、1名死傷。 10月、黒倉地区で地すべりが再発。 12月31日、白馬コルチナススキー場で雪崩が発生。一名負傷。	4月、白馬村の土石流特別警戒区域(56箇所)を土砂法指定する。 12月、白馬村の急傾斜地崩警戒区域(166箇所)、特別警戒区域(152箇所)を土砂法指定する。	4月、JR福知山線脱線事故発生。
平成18年	2006	1月5日、白馬・小谷豪雪対策本部を設置。災害救助法が適用される。 4月5日、半坂および新屋で地すべりが再発。 5月12日、小谷温泉新湯沢で土石流が発生。県道が通行止となる。 7月3日、大なで沢(押立洞門横)で土砂が流出する。 7月17日、小谷温泉上で地すべり。県道が流失する。 7月20日、十二沢の右岸で地すべりが再発する。 7月22日、白馬大雪渓の上部(白馬岳側)で土石流が発生し、雪渓中央部まで押出る。	11月、小谷村の土石流警戒区域(66箇所)、特別警戒区域(28箇所)を土砂法指定する。 11月、小谷村の急傾斜地崩警戒区域(221箇所)、特別警戒区域(194箇所)を土砂法指定する。	
平成19年	2007	2月19日、ホテル国富従業員宿舎の裏で落石が発生。11名が自主避難する。 3月6日、小谷温泉新湯沢で土石流が発生(流出土砂2,000m <sup>3</sup> )。県道が通行止めとなる。山田温泉の宿泊客4名と従業員が孤立する。		3月25日、能登半島地震が発生。M6.9。最大震度6強。死者1名。全壊家屋684棟。 7月16日、新潟県中越地沖地震発生。M6.8。最大震度6強。死者15名。

年号	西暦	管内の土砂災害	主な砂防事業史	その他記述
平成20年	2008	2月3日、桐池スキー場で表層雪崩が発生。スキーヤー7名が巻き込まれる。2名死亡。2名軽傷。		
平成23年	2011	6月、梅雨前線豪雨。唐沢で土石流が発生し、県道千国北城線が被災する。	8月、稗田山崩れ99年シンポジウムを開催。	3月11日、東北地方太平洋沖地震の津波等により、東日本大震災が発生する。M9.0。最大震度7。死者は約15,900名、行方不明者3,070名全壊家屋12万9千棟を越す。 3月12日、長野県北部で地震。M6.7。栄村で最大震度6強。死者3名。 6月30日、長野県中部で地震。M5.4。松本市で最大震度5強。死者1名。
平成24年	2012	1月31日、小谷村に豪雪対策本部が設置され、災害救助法が適用。 2月、土谷川沿いの太田および中谷西地すべり。 5月、横川地すべり。	7月19日、姫川砂防事務所開設70周年記念講演会を開催。 11月9日、稗田山崩れ100年シンポジウムを開催。	
平成25年	2013	5月、池原で地すべりが発生。姫川に向かい幅80m、長さ90mの変状。集水井が変形。 6月18日、梅雨前線豪雨。姫川右岸が決壊し、大糸線が2ヶ月弱不通となる。 11月、清水山で地すべりが発生。村道が被災する。	6月27日、池原で災害関連緊急地すべり対策事業が採択される。	9月15日、台風18号。県南部、東部を中心に441箇所を災害採択(50億円余)。
平成26年	2014	4月3日、日向沢(白馬村)左岸で山腹崩壊(L=150m、W=60m)。 4月3日、横根沢右支大日向沢(小谷村)左岸で山腹崩壊(L=300m、W=70m)。 4月18日、大沢で地すべりが発生(L=120m、W=80m)11月22日(22時8分頃)。長野県神城断層地震発生。M6.7。長野市・小川村・小谷村で震度6弱。白馬村・信濃町で震度5弱。死者なし、負傷者46人、全半壊(住宅)244棟。地すべり14箇所、山腹崩壊1箇所、がけ崩れ4箇所。		7月9日、梨子沢(南木曾町)で大規模土石流が発生。死者1名。軽傷3名。 9月27日、御嶽山噴火。死者58名。不明者5名。
平成27年	2015		2月3日、災害関連緊急地すべり対策事業で5箇所採択される。小谷村(八方岩、神久、真木、市場2号、梨平) 4月、通常地すべり対策事業にて災害対応8箇所採択される。小谷村(清水山、大沢、市場1号、千国、神久、梨平、戸石、北雨中)。特定緊急地すべり対策事業1箇所採択。小谷村(八方岩)	
平成28年	2016	7月15日、小谷村宮上(門前沢)で土石流が発生。堰堤3基及び村道が被災。人的被害なし。		4月14日、熊本地震発生。最大震度7。死者約260名。負傷者約2,800名。
平成29年	2017			3月5日、長野県消防防災ヘリコプター「アルプス」が訓練中に墜落。死者9名。
平成30年	2018			1月23日、草津白根山噴火。死者1名。負傷者11名。
令和元年	2019	10月13日、ヒノミコ沢で土石流発生。人家へ土砂流出。人的被害なし。		10月12～13日、台風19号により千曲川の穂保地区の浸水被害をはじめ、多数の水害が発生。土砂災害については県内で43件発生。県内:死者5名 重軽傷者144名
令和2年	2020			6月30日から7月31日までの梅雨前線により、県内で84件の土砂災害が発生。県内:死者1名 重軽傷者2名